

「生きる力につながる確かな学力を育む指導の研究」
～基礎・基本の定着を図り、主体的に学ぶ姿勢をつくる指導をめざして～

I 研究の内容

1 思考力・判断力・表現力・問題解決的な資質や能力の育成

- (1) 思考・判断・表現などが必要になる問題解決的な学習の推進
- (2) 自分自身の生活との関係で考えたり，表現したりする授業の工夫
- (3) 発表や話し合いなどにより，学びの質を高める指導の工夫

2 指導と評価の一体化を図り，フィードバックを充実させることによる基礎・基本の定着

- (1) 生徒の発言やつまずきの分析をもとにした適切な支援
- (2) 評価内容及び評価方法の改善
- (1)、(2)に関する各教科の具体的な取り組みの例

ア 各教科のテーマ

イ 研究の具体内容

- ・ 生徒の実態と課題・教科の指導方法の現状と課題・学習意欲向上のための指導の工夫
- ・ 個に応じた学習指導・新学習指導要領の完全実施を見据えた指導
- ・ 家庭学習（宿題）の取り組ませ方・少人数・TT授業の実践 など
- ・ 生き方を考えさせ、実践力を高める道德教育
- ・ 教育相談、生活指導、コミュニケーションスキルに関する研修と実践
- ・ 特別支援教育の実践研究・新教育課程の検討・読書活動の推進、図書館教育、特活など

3 研究授業

テーマに沿って、1、2年生から各1名に授業を提供してもらい、ワークショップ方式で、付箋紙を用いて授業観察・研究会を行なう。

4 公開授業

すべての教師が年1回普段の授業を公開。他の教師の授業を空き時間に年2回以上参観する。管理職に見てもらい授業と兼ねてもよい。公開の日時は1週間ほど前までに研究主任に申告し、朝の連絡で全員に伝える。負担軽減のため、指導案や研究会は省略し、簡単な報告書を研究主任に提出する。報告書の内容については、授業者が工夫点を記入し、「参観の視点」を設けて、それについて感想を書き込む。報告書は、研究主任から授業者へ渡しフィードバックする。

5 生活習慣アンケート

生活習慣と学力の相関関係が表れた項目について、さらに調査するとともに、その実態から家庭と連携して生活習慣の改善に努める、アンケートはマークシート形式。アンケート集計は研究主任が行う。結果については、「個別」「学年別」「学力と生活習慣の相関関係」の3つで集計を行う。5月中旬に実施。

6 自学の時間

- (1) 目的 「基礎学力定着」と「主体的学習態度の育成」の2本柱とする。

ア 基礎学力の定着

- ・ 国語、数学、英語の基礎学力定着
- ・ NRT、中間テスト、期末テスト等から、基礎学力の定着していない生徒を確認し、それらの生徒を取り出し指導する。

イ 主体的学習態度の育成

- ・ 3教科の基礎学力が定着している生徒を中心として自主学習（5教科の学習）
自分で課題を考え自学自習（教師は質問に対応できる体制）

(2)時間 月曜日の帰りの会が終わった後の6校時[15:10-16:10]に行う。

7 学年別研究会

生徒の現状を分析しつつ、確かな学力が身につく指導法の研究を進める

- (1) 学習規律、基本的生活習慣の確立や社会規範を身に付けること、集団作り等
- (2) 自学の時間の活用
- (3) キャリア教育の研究

8 全体研究

「生きる力」の育成を図るための研究

- (1) キャリア教育の視点に立った、意図的、計画的な進路指導を推進する。
- (2) 生徒の自主・自立を尊重した生徒会活動の充実を図る。
- (3) 言語環境の充実、国語力（言語活用能力）、読解力向上に関する研究

9 講師を招聘しての研修

- (1) 『hyper-QUを活用した学級経営』について

講師 都留文科大学地域研究センター特任教授 品田笑子先生

- (2) 『脳科学よりみた脳の発達 ～どのように発達特性を考え支援するか～』

講師 山梨大学医学部教授（精神内科医） 相原正男先生

II 成果と課題

1 成果

- ・各教科で、研究に沿って具体的な取り組みを挙げ、基礎・基本を意識した授業が行われた。
- ・研究授業は研究主題にせまる内容として全教員で参観し、視点を明らかにし、付箋紙を用いて行ない、研究会でも全職員が意見を出せる体制で行なえて討議が深まった。
- ・自学の時間は、昨年度の反省を元に、各学年で生徒の実態に沿った適切な計画で実施された。生徒の学習への集中度が増し、教師が丁寧に指導することで国数英の基礎学力の定着に役立ったと思われる。また、3年生が1年生に教えるという形態もお互いにとって大変良かった。
- ・公開授業では、忙しい中を実施したり、参観する数が昨年度よりは増えて良かった。
- ・念願の講師を招聘しての研修により、生徒に向き合う教師のあり方が学べて大変良かった。

2 課題

- ・公開授業は忙しい中で参観が難しく、今後見直す必要がある。いつでも参観できるという体制は残し、研究授業をより充実させることで、お互いの指導の見直し、改善に役立てるよう進めていくことが望ましい。
- ・生活習慣アンケートから出た結果をどう指導に生かしていくかが課題である。

III 成果物

研究授業 内田 貴之 教諭 1年3組 数学科

小沢 隆広 教諭 1年1・2組男子 保健体育科

自学の時間 全学年 月曜日6校時 年2 1回実施

生活習慣アンケート 今年度と昨年度のものを同一学年で比較

(研究主任 長嶋 明美)